

氏名	下 村 宏 之
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 535 号
学位授与の日付	昭和57年 3 月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	慢性肝疾患患者血清中の抗肝細胞膜抗体の研究 第1編 Studies on ADCC assay using antigen-coated cells as target for detection of anti-LP-1 and anti-Tamm-Horsfall glycoprotein. (抗LP-1および抗Tamm-Horsfall糖蛋白検出のための、抗原被覆細胞を標的としたADCC assayに関する研究。) 第2編 Studies on anti-LP-1 and anti-Tamm-Horsfall glycoprotein in chronic liver disease using ADCC assay against antigen-coated target cells. (抗原被覆標的細胞に対するADCC assayを用いた、慢性肝疾患における抗LP-1と抗Tamm-Horsfall糖蛋白に関する研究)
論文審査委員	教授 木村郁郎 教授 太田善介 教授 折田薫三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

慢性肝疾患の進展における肝細胞膜に対する自己抗体の出現とその臨床的意義を検討した。ヒト肝細胞膜上に存在すると言われている肝特異的膜リポ蛋白(LP-1)またはTamm-Horsfall糖蛋白(THGP)を表面に被覆した培養細胞(FL細胞)を標的とし、健常人リンパ球を効果細胞としたantibody-dependent cell-mediated cytotoxicity(ADCC)法を用いて、血中抗LP-1、抗THGP抗体の検出を試みた。ここで用いた方法は、ウサギ抗血清を用いた実験により、抗原に特異的な抗体によって、IgG Fcレセプター保有リンパ球を介して起こる細胞障害であることが示さ

れた。慢性肝疾患患者血清中に、抗LP-1または抗THGP抗体が検出され、特にルポイド肝炎に高率に認められた。また慢性肝炎の急性増悪期にこれらの抗体が出現する傾向があり、ステロイド治療により消失することが観察された。以上より、抗LP-1・抗THGP抗体が慢性肝疾患の進展と関連性をもって出現していると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は慢性肝疾患患者血清中の抗肝細胞膜抗体について実験的並びに臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった抗肝細胞膜抗体の測定法について抗原被覆細胞膜を標的としたADCC assay法を考察し、又臨床的には慢性肝疾患を中心に抗肝細胞膜抗体の検出を行ない肝疾患の病態と一致して変動していることを認め、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。